

地域活動充実支援事業

(手柄地区)

No. 19 2021.12

手柄地区において、行政と地域がともに考え行動していく地域活動充実支援事業についてお知らせします。

第20回「もっとよく知ろう手柄」ミーティング

会議概要

日時	場所
令和3年12月18日(土) 13:30~15:00	姫路市総合福祉会館 第2会議室

出席者(順不同)	自治会長や地域活動団体関係者等約50名、姫路市2名
----------	---------------------------

議題
<ul style="list-style-type: none"> 「手柄地区のオモシロ事」について 講師：芳賀 一也 氏 (郷土史家) 企画：手柄地区を楽しむグループ

議事内容／結果

<p>1 開会</p> <p>高澤手柄地区連合自治会長 挨拶</p> <p>・いつも地域行事に参加、協力いただきありがとうございます。「もっとよく知ろう手柄」ミーティングも20回目となった。皆さんと一緒に手柄について奥の深いところまで学びたいと思っている。このミーティングは地域活動充実支援事業として市の支援を受けており、コミュニティが活発になればと思いながら続けている。「引越し大名」という映画があったが、手柄にあるお寺は引越し大名によって作られたという話を芳賀先生から聞いたことがあり、手柄にはまだまだ埋もれた、知るべきこと、楽しめることがあることから、改めて芳賀先生に「観光」の視点も交えた、手柄に関する講演を依頼した。今日も、手柄を軸にして様々な方が集まってくださっている。ゆっくりお楽しみいただければと思う。</p>
<p>2 講話「手柄地区のオモシロ事」</p> <p>手柄には生矢神社があり、出雲神話に出てくる大国主命(おほくにぬしのみこと)が祀られている。ご神紋は三本杉。拝殿上には「生矢神社」ではなく「手柄山三和社」と書かれた板が掲げられている。</p> <p>播磨国風土記のレプリカが姫路文学館にある。1300年前の内容で、平安時代に写本された書物であるが、意外に内容が理解できる。風土記には、地方の産物、伝承のほか、土壌についての記述もあり、現存するのは播磨、常陸、出雲、肥前、豊後の5書のみ。</p> <p>風土記によると、手柄の名前は、手で草(又は稲)を刈った「手苳(てがり)」に由来する。また飾磨は、大三間津日子命(おほみまつひこのみこと)が屋形を造って居られたときに、鹿が鳴いたことから名づけられたようで、その場所は北平野のあたりではないかと思っている。飾磨の港が</p>

飾磨津で、現在はそのあたりが飾磨と呼ばれているが、昔、飾磨はもっと北のほうに位置していた。そして、現在の姫路市街地から手柄山のあたりにかけては伊和里と呼ばれていた。

姫路の地名にまつわる有名な話では、火明命（ほあかりのみこと）が自身を置き去りにした父である大汝命（おおなむちのみこと）に怒り、父の船に対し波風を起こし、船の積み荷が流れた場所として、船丘（ふなおか）、波丘（なみおか）、琴神丘（ことかみのおか）、匣丘（くしげおか）、箕形丘（みかたおか）、甕丘（みかおか）、日女道丘（ひめぢおか）など 14 丘が名づけられた。ちなみに大汝命と大国主命は同一。

その他、神功皇后の遺蹟や辻井にある行矢神社と播磨国総社の話など。

3 まとめ（姫路市市民活動推進課）

播磨風土記から始まり、手柄や飾磨の名前の由来、生矢神社ほか姫路郷土史について、ロマンのある講話だった。地元なので知っていたこと、地元だけど知らなかったことなど、知識の再確認や新発見があったのではないかなと思う。

この手柄ミーティングに毎回参加されている方、興味のあるテーマの時に参加されている方、各種団体への声掛けにより出席されている方、初めての方など、いろいろだと思うが、まずは集まりに参加していただき、この会の名前にもなっているように、皆さんが住んでいる手柄の、話題や、ゆかりのある人のことや、懸案事項など、いろいろな話を聞き、手柄をもっと知って、もっと関心を持っていただければと思う。さらに、こうして集まった人同士、顔見知りになったり、話し合ったり、お互いに考えや意見を言いあったりし、さらには、具体的に活動に関わる、行動する、と進んでいくことができれば、もっと手柄の地域活動が充実したものになっていくのではないかなと思う。

次回 令和4年1月30日（日） 13時30分から 姫路市総合福祉会館

内容：「手柄山に新しいスポーツ施設が誕生します」

講師：姫路市手柄山公園整備室 企画：手柄地区を楽しむグループ

次々回 令和4年2月27日（日） 13時30分から 姫路市総合福祉会館

内容：「手柄ザクラと地域活性化」

座長：兵庫県立大学 熊谷 哲 教授 企画：手柄地域交流グループ

当日の様子

